

公立大学法人熊本県立大学
平成29年度 年度計画

平成30年1月変更
公立大学法人熊本県立大学

目 次

1. 年度計画の概要	P 1
2. 中期計画の期間、重点目標を達成するための取組	P 4
3. 年度計画		
(Ⅰ) 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	P 6
(Ⅱ) 業務運営の改善・効率化に関する目標を達成するための取組	P16
(Ⅲ) 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組	P17
(Ⅳ) 自己点検・評価及び情報提供に関する目標を達成するための取組	P18
(Ⅴ) その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組	P19
(Ⅵ) 予算、収支計画及び賃金計画	P20

公立大学法人 熊本県立大学 平成29年度計画の概要

地方独立行政法人法第27条の規定に基づき策定する、第2期中期計画の最終年度である平成29年度の年度計画であり、教育、研究、地域貢献、国際化、学生生活支援、業務運営の大学運営全般にわたり48の計画で構成。

なお、中期計画の達成状況を自己点検し、達成して取組みが定着しているものについては年度計画を策定していない。(ただし、中期計画に掲げる以上の取組みを行うものについては策定)。

1 教育 熊本地震からの復興支援の取組を見据え、社会貢献に資する教育等を展開する。

主な計画

- 各学部、学科において、地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）、地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）、学生 GP 制度等も活用して、地域志向科目や地方創生科目の着実な実施等、地域の諸課題を題材とした教育研究の取組を推進する。<計画番号(5)のア>
- 熊本地震からの復興支援に関連する教育研究の取組を推進する。<計画番号(5)のイ>
- 平成29年度から施行する総合管理学部の新カリキュラムを着実に実施するとともに、アドミニストレーション研究科においては、見直しを行ってきた研究科の理念、人材養成の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを確定させ、新カリキュラム（案）を策定する。
<計画番号(18)のウ><計画番号(10)>
- 平成28年度の認証評価の受審結果に基づき、全学部において、キャップ制の導入に向けて検討する。<計画番号(23)>
- 高大接続システム改革に伴う大学入学者選抜改革への対応に向けて、平成33年度の入学者選抜実施方針の検討を行う。<計画番号(1)>

2 研究 優れた研究活動に努め、特に組織的に推進してきた特色ある研究の成果をまとめ、発信する。

主な計画

- 研究活動を活性化するため、科学研究費補助金への全員応募を維持していく。<計画番号(26)>
- 文学研究科においては、ジェンダーをテーマとした横断研究のまとめをする。「地域伝来文献の横断的研究」を始動する。<計画番号(25)>
- 環境共生学研究科においては、「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」及び「地域の環境共生型社会の構築に関する研究」をプロジェクト・チームにより引き続き推進し、その成果を取りまとめると共に、フォーラム等の機会を通じて公表する。<計画番号(25)>
- アドミニストレーション研究科においては、「地域社会の持続的な創造への枠組みに関する研究」として、平成24年度より推進してきた自治体の課題に関する研究を取りまとめる。<計画番号(25)>

3 地域貢献 地域社会との連携を図りつつ、本学の教育研究活動を地域に資するものとして展開し、その成果を地域社会へ普及させる。

主な計画

- 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）における連携自治体の地域課題解決を引き続き積極的に支援する。〈計画番号(33)のア〉
- 地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）の参加校として、県内の参加大学、産業団体、自治体と連携して、県内の1次産業分野における産業創生、雇用創出の支援に取り組んでいく。〈計画番号(33)のイ〉
- 授業公開講座、各種公開講座、CPD等、県民の学習ニーズに対応した生涯学習や専門職業人教育のための機会を継続的に提供する。〈計画番号(35)〉

4 国際化 「世界に伸びる」ための諸活動を推進し、大学の国際化と学生の国際的視野の涵養を図る。

主な計画

- 学生の海外留学を支援する本学独自の奨学金制度を見直し、協定校への派遣等学生の積極的な海外留学を促進する。〈計画番号(36)のア〉
- 協定校をはじめとする海外大学との学術交流を引き続き図る。〈計画番号(37)のア〉
- 国際情勢をテーマとしたシンポジウムを実施する。〈計画番号(37)のイ〉

5 学生生活支援 学生の多様なニーズに適応するきめ細かい学生生活支援を着実に実施する。

主な計画

- 課外活動については、その活動に伴う成績等について積極的にホームページ等を利用して学外に対し情報を発信する。また、ボランティア活動については、ボランティアステーション等を活用しながら、その活動を引き続き支援する。〈計画番号(39)〉
- 従来からの授業料減免・熊本県立大学奨学金制度及び平成28年熊本地震により被災した学生に対する授業料減免等による学生の経済的支援を実施する。〈計画番号(40)〉
- 大学コンソーシアム・県等のインターンシップ参加希望学生の支援及び本学インターンシップ協力企業の充実を図る。〈計画番号(44)のイ〉

6 業務運営 熊本地震被害の復旧を速やかに進め、良好な教育研究環境を整備するとともに、効率的・効果的な業務運営を図る。

主な計画

- 熊本地震被害に伴う災害復旧工事の早期発注・完了に取り組む。その上で、限られた予算の中で、緊急性や必要性を考慮し、効率的かつ計画的な建物・設備・機器等の整備に取り組む。また、施設設備の維持改修に必要な財源の確保に資するため新たな施設設備保全計画を策定する。〈計画番号(61)〉
- 平成 28 年度に受審した認証評価の結果を公表するとともに、必要に応じて第 3 期中期計画に反映させる。〈計画番号(58)〉
- 平成 29 年が大学創立 70 周年であることを踏まえ、これまで以上に本学の歴史を振り返られる資料の収集に努め、アーカイブの充実を図る。〈計画番号(46)〉

<p>中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)</p>	<p>中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)</p>	<p>平成29年度 年度計画</p>
<p>熊本県立大学は、これまで「総合性への志向」、「地域性の重視」、「国際性の推進」を理念に掲げ、地域社会における高等教育機会の提供、人材育成、教育研究による社会への貢献という役割を果たしてきた。</p> <p>公立大学法人へ移行した平成18年度からは「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに掲げ、教育研究等の質の向上、大学運営の改善・効率化等に積極的に取り組んだ。中でも熊本県の文化・歴史・自然・社会・産業を題材とした地域実学主義に力を注いだ。これらの取組の結果、地域貢献の分野で高く評価され、財務状況も良好に推移するなど、順調な成果を上げてきた。さらに、人文科学・自然科学・社会科学の3分野全ての教育課程で学士・博士前期・後期課程が完備され、名実ともに高度な高等教育機関としての体制が整備された。</p> <p>これからの第2期中期目標期間において熊本県立大学は、時代の要請や社会経済情勢の変化を敏感に捉え、個性や特色を明確にしなが、本県唯一の公立大学として学生や県民の期待により一層応えるため、次のような大学を目指す必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会を担う人材育成の拠点としての大学 豊かな教養を備え、地域社会ひいては国際社会の発展に貢献できる有為で、創造性豊かな人材を育成する。 ・地域社会の発展に貢献する知的創造の拠点としての大学 専門的かつ最先端の学術研究を充実させ、総合的な大学という特色を生かした学際的な研究を推進して、地域社会で発生する様々な課題の解決に寄与するとともに、研究成果を広く普及させ、地域社会の発展に貢献する。 ・地域社会における学習・交流の拠点としての大学 地域社会のニーズに応える学習の場を提供して、県民が必要に応じて教育を受けることができるようにするとともに、学術、教育、文化等の関係機関や海外協定校との交流・連携を推進する。 <p>このような大学を実現するため、県は、公立大学法人熊本県立大学が今後の6年間に推進すべき具体的な取組について中期目標を定める。</p>		
◇ 中期目標の期間	◇ 中期計画の期間	
平成24年4月1日から平成30年3月31日まで	平成24年4月1日から平成30年3月31日まで	

<p>中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)</p>	<p>中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)</p>	<p>平成29年度 年度計画</p>
<p>◇ 重点目標</p>	<p>◇ 重点目標を達成するための取組</p>	
<p>(1) 教育の質の向上 これまで取り組んできた地域社会を担う人材の育成を更に推進するため、学位授与の方針に基づき教育課程編成・実施の方針を明確化し、教育課程の検証・見直しを行うとともに、各授業科目の成績評価基準の明確化と客観的な評価方法の運用によって教育の質を確保する。 また、地域企業や地域社会との連携を強化し、独自のキャリア教育を確立する。</p> <p>(2) 特色ある研究の推進 これまで成果を上げている自治体や企業との共同研究等に加え、今後、全国をリードするような研究の推進に向け、独自性のある研究の方向性を明確化し、その推進を図る。</p> <p>(3) 地域貢献活動の更なる推進 これまでも高く評価されている地域貢献活動の更なる推進を図るため、大学・試験研究機関等との連携を強化し、共同研究成果を地域社会へ普及させる。</p>	<p>熊本県立大学は、「地域に生き、世界に伸びる」のスローガンの下、地域に根差した教育と研究を実践し、第1期中期計画期間においては、教育の質の向上、研究の推進、地域貢献活動の推進に取り組み一定の成果を得た。第2期においても引き続き「教育の質の向上」、「特色ある研究の推進」、「地域貢献活動の更なる推進」をこの期間における本学の使命と掲げ、これまでより更に高いレベルの教育・研究活動を展開していく。</p> <p>(1) 教育の質の向上への取組 第1期では、文学研究科に博士課程を整備した。これにより本学には学士課程、博士前期課程、博士後期課程が揃い完全な教育体制が完成した。また、学際的な学部である環境共生学部において学科制を導入し、人材育成を強く意識した教育体制を整備した。また、大学教育の近年の特性に鑑み、キャリアデザイン教育システムを構築し、加えてディプロマ・ポリシーの明確化など教育の質の向上に取り組む手立てを完備した。その結果、卒業研究を地域企業や地域社会と協働で行う「学生GP制度」が文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に採択された。 第2期では、学部と大学院との接続・連携の強化、人文科学・自然科学・社会科学の「知の統合」を目指す全学共通教育プログラムの開発、アドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシーの間に位置するカリキュラム・ポリシーの点検と明確化等を踏まえ、教育課程の編成及び成績評価基準の精緻化に取り組み、教育の質を更に高めていく。また、「学生GP制度」の定着と実質化に取り組みとともに協定校をはじめとする海外大学との交流を深め、教育の国際化を推進する。</p> <p>(2) 特色ある研究の推進への取組 第1期では、科学研究費補助金への全教員応募を目標に掲げる一方で、学内には学長特別交付金制度や学会発表支援制度による研究支援を実施した。また、外部研究資金に関する公募情報の提供及び事務支援、出版助成制度の導入など大学の研究力の源である教員個人レベルの研究活動の活性化に取り組んだ。その結果、中期期間の最終年度において科学研究費補助金への応募率が97%となった。 第2期では、教員の研究活動を更に高めるため科学研究費補助金への応募を義務化する。また、重点的に推進する研究の方向性を明確化し、「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」は日本有数、「基礎自治体との共創的研究」及び「言語・文学・文化の横断的研究」は九州不可欠なものを目指し、推進組織の整備も含め独自性のある研究として社会に認められるよう組織的推進を図る。</p> <p>(3) 地域貢献活動の更なる推進への取組 第1期では、地域連携センターの開設に続き、基礎自治体等との包括協定制度の導入、継続的に専門職能開発が地域において可能なように熊本県立大学CPDセンターを開設した。また、地域との連携教育研究推進制度を作ることで法人化前の地域交流から地域連携へと進化が見られた。『全国大学の地域貢献度ランキング』(日本経済新聞社)1位(平成21年度)はその一つの表れである。 第2期では、包括協定の実績の下、本学の特色を活かした連携を強化し、組織的な推進体制を構築し、研究成果と研究情報の定期的な発信の機会を設ける。また、大学・試験研究機関等との相互協力による地域産業の振興に資する研究活動を強化する。そして、高等教育機関としての九州全域での貢献を視野に「熊本県立大学CPDプログラム」の開発・提供に努める。</p>	

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	
1 教育に関する目標	1 教育に関する目標を達成するための取組	
○公立大学法人熊本県立大学は、次のような人材を育成する。		
<学士課程教育>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的な思考で自ら課題を抽出・分析し、創造的な解決策が提示できる人材。また、総合的な判断ができる人材。 ・ 積極性、自律性、行動力を身につけ、社会状況の変化に柔軟に対応できる人材。 ・ 地域社会や国際社会に興味・関心を持ち、多様性を認めることができる人材。また、コミュニケーション能力を持ち、協調性があり、社会において人的ネットワークを形成できる人材。 ・ 高い職業観を持ち、主体的に自らの職業人生を構想・設計できる人材。 		
<大学院教育>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の諸課題の発見・解決のために専門的知識や能力を応用できる人材。特に博士後期課程においては自立して研究を遂行できる人材。 		
(1) 入学者受入れに関する目標	<入学者受入れに関する目標を達成するための取組>	
① 適正な入学定員を設定するとともに、多様な選抜方法を活用して、各学部・研究科の入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生を確保する。	(1) 社会の状況や受験生の動向に配慮しながら、一般選抜・特別選抜のあり方について検証し、選抜方法について必要な改善を加える。	(1) 高等学校等からの意見収集を継続して実施し、その結果や志願状況を分析し、選抜区分、募集人員の配分、入試科目の設定等について改善すべき点がないか検証を行った上で、平成31年度の入学者選抜実施方針を策定する。 高大接続システム改革に伴う大学入学者選抜改革への対応に向けて、平成33年度の入学者選抜実施方針の検討を行う。
② 大学院では、学内からの優秀な進学者の確保に努めるとともに、社会人や外国人留学生が学びやすい体制を整備し、受入れを積極的に進める。	(2) 優秀な内部進学者の確保に向け、学部と大学院との関係を強化し、連携の仕組みを作る。また、優秀な社会人・外国人留学生の確保に繋がる取組を行うとともに指導体制を充実する。	(2) ア. 優秀な内部進学者の確保に向け、次の取組を行う。 ・平成28年度より施行している大学院授業科目早期履修制度について、検証を行う。 ・研究科の教育・研究活動や企業等が求める高度な専門知識や能力、大学院授業科目早期履修制度等について、大学院進学説明会や修士・博士論文の中間発表会等への参加を促すことで、学部学生に伝える機会を適切に設ける。 イ. 優秀な社会人・外国人留学生の確保に向け、次の取組を行う。 ・大学院博士後期課程秋季入学制度の広報を積極的に行う。 ・研究科の教育・研究活動及び修士・博士論文の中間発表会等の公開の広報を積極的に行う。

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
(2) 教育内容・方法に関する目標	＜教育内容・方法に関する目標を達成するための取組＞	
① 地域に学ぶことを重視し、実践的・総合的な教育を充実する。	(3) 人文科学、自然科学、社会科学の「知の統合」の教育の核となる全学共通の教育プログラムを開発する。	(3) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
	(4) 教養教育については、初年次に必要な教育と4年間で修得する知識・能力の総合性のバランスに配慮した教育を充実する。	(4) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
	(5) 専門教育については、学部、学科ごとに地域の諸問題を題材とした特長のある取組を充実する。	(5) ア. 各学部、学科において、大学COC事業、COC+、学生GP制度等も活用して、地域志向科目や地方創生科目の着実な実施等、地域の諸課題を題材とした教育研究の取組を推進する。 イ. 熊本地震からの復興支援に関連する教育研究の取組を推進する。
	(6) 外国語教育については、語学習得への意識・意欲を高めて語学能力の育成を図るため、現行のあり方を見直す。	(6) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
	(7) 九州で優位な「食健康と食育に係る人材養成拠点」の形成を目指す。	(7) ア. 食育・健康プロジェクト推進委員会において、平成29年度で計画期間が終了する「熊本県立大学の食育・健康ビジョン」の見直しを行うとともに、今後の食育・健康活動のあり方や推進体制について検討を行う。 イ. 環境共生学部内において平成25年度に立ち上げた地域資源を活用した食健康等に関する研究プロジェクトの平成29年度終了に向けて、成果のとりまとめを行う。 ウ. 学生の食に関する意識を高め、食生活改善と健康増進につなげる取組を積極的に行う。また本学が有する専門的知見や研究成果を生かした食育・健康に関する情報発信、地域貢献活動を進める。

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
② 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を明確にするとともに、その方針に沿って教育課程の検証・見直しを行い、体系的な教育課程を編成する。	(8) 平成25年度末までにカリキュラム・ポリシー(CP)を明確化し、公表する。その上で、アドミッション・ポリシー(AP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、ディプロマ・ポリシー(DP)を踏まえた教育課程を編成する。	(8) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
	(9) 学士課程と博士前期課程の一貫教育について、必要性和有効性を検証し、導入を図る。	(9) 学部・博士前期課程の効果的な接続性(一貫性)について、一貫教育の手法として導入した大学院科目早期履修制度も含めて、必要性和有効性を検証し、その結果を集約する。 また、大学院授業科目早期履修制度の活用、ゼミ指導や進路指導の機会等を活用して大学院教育の意義や内容について理解を深めさせる。
	(10) 大学院教育では、学位の質保証につながる教育に向けて教育内容を見直す。	(10) 平成28年度までの取組及び検証結果を踏まえ、平成29年度は特に次の取組を行う。 <文学研究科> FDIにより、これまでの院生の研究成果発表状況を把握し、教育課程の点検を行い、必要に応じて教育内容を見直す。 <環境共生学研究科> 平成28年度に引き続き前期・後期課程において複数教員指導体制による教育研究指導を行う。また、前期課程では1年生及び2年生の演習科目を通して複数教員による指導を行い効果的な教育体制を維持する。また、引き続き、修士論文中間発表会の確実な実施を図る。 <アドミニストレーション研究科> 見直しを行ってきた研究科の理念、人材養成の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを確定させ、新カリキュラム(案)を策定する。(平成31年度施行目標)
	(11) 大学院教育では、教員免許制度改革の動向を勘案し、教育課程の検討を進める。	(11) 他大学の教職大学院の動向を把握し、本学大学院における教職課程の役割を明確化する。

<p>中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)</p>	<p>中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)</p>	<p>平成29年度 年度計画</p>
<p>③ 十分な教育効果が得られるよう教育方法の検証・見直しを行うとともに、その結果に基づき、多様な教育方法を実施する。</p>	<p>(12) 自ら考え、意見を述べることができる能力の育成及び授業の双方向性を高めることを目的に授業方法を改善する。</p>	<p>(12) ア. 引き続き 自ら考え、意見を述べる能力の育成に資する授業、双方向性で実施している授業及びこれらの授業に関する課題等について学科内で把握、情報を共有し、必要に応じてFD等を実施し、授業方法の改善を行う。 イ. 平成28年度に引き続き、双方向授業に関する先進事例について情報収集し、学内で情報共有するとともに、必要に応じてFD等を実施し、授業方法の改善を行う。 ウ. 平成27年度新カリキュラムから1年生必修科目となった「もやいすと育成」の授業について、これまでの授業実施状況に対する振り返りを踏まえ、SA制度を積極的に活用し、自ら考え、意見を述べる能力の育成を行う。</p>
	<p>(13) 管理栄養士国家試験について、合格率90%以上を目指す。そのためにカリキュラムや教育内容を含めた教育体制について逐次見直すとともに、各授業科目間の連携を強化する。</p>	<p>(13) ア. 平成29年度(第32回)からの管理栄養士国家試験の日程変更も見据え、より教育効果が得られるよう、受験資格に必要な授業科目の配当時期を見直す。 イ. 管理栄養士国家試験合格率の維持・向上を目指し、管理栄養士国家試験対策委員会において、平成28年度に新たに実施した学生への指導方法を検証する。また、国家試験の結果ならびに平成28年度の受験生(4年生)の学習状況を解析し、受験指導を行う。</p>
<p>④ 地域企業や地域社会と連携したキャリア教育を確立し、学生の就業力を向上させる取組を強化する。</p>	<p>(14) 学年進行や学問領域に応じたキャリアデザイン教育を展開する。また、「学生GP制度」の定着と実質化に向けた取組を進める。</p>	<p>(14) 3年次対象の就職セミナーを活用して、キャリアデザイン教育を充実する。</p>
	<p>(15) 学部、学科教育の目標と取得可能な資格の位置づけを明確化し、学生の資格取得に必要な支援を行う。</p>	<p>(15) ア. 各学科の教育カリキュラムを通して取得可能な資格を学生に明示し、その取得に向けた対策並びに社会的な意義について、オリエンテーション、プレゼミナール、説明会を通して、学生に広く周知する。 イ. 総合管理学部では、希望する学生に対し、就職の際に有用であると考えられる各種簿記検定対策講座を開講する。日商簿記検定3級については、キャリアセンター主催の対策講座により代替する。</p>

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
(3) 教員の能力に関する目標	＜教員の能力に関する目標を達成するための取組＞	
① 教員一人一人が、教育を重視、充実することの重要性を認識したうえで、社会の要請や学生のニーズに応える教育を行うことができるよう、教員の教育力を向上させる。	(16) 教員の教育能力の開発及び学部・学科・コースの組織力向上に向けて、FDに取り組む。	(16) ア. 平成28年度に策定したFD第4期3か年計画(平成29～31年度)に基づき、全学・学部・研究科毎に計画的にFDを実施する。 イ. 平成28年度に引き続き教育力、研究力の向上を図るため、能力開発プログラム(SPODフォーラム等)へ派遣等の機会を利用して、経験の浅い教員・職員に対するFDを実施する。
② 教育の質の向上のため、教員の教育活動について、適切な評価・改善を行う。	(17) 教員の教育活動について、個人評価制度による自己評価及び授業評価アンケート等による他者評価を活用し、教育改善を進める。	(17) ア. 授業評価アンケートについて、教員の授業改善の目的に加え、カリキュラム・ポリシーにおける「学修成果の評価」の具体化へ向け、アンケートの試行的な改善に取り組み、評価システムの検討を行う。 イ. 各教員は、平成28年度の教育活動を取りまとめた「個人評価調査票」を作成し、学部長へ提出する。
(4) 教育の実施体制等に関する目標	＜教育の実施体制等に関する目標を達成するための取組＞	
① 教育研究の進展、社会の要請、学生のニーズに柔軟に応える教育を行うため、必要な実施体制を整備する。	(18) 大学の設置理念に基づき、教育力・研究力の向上に資する学部・学科組織の構築に向け、学部・学科の改組及び収容定員について検討する。	(18) ア. 文学部では、近年の入学者選抜の状況や学部・学科の現状等を検証し、学部・学科の将来構想を検討する。 イ. 平成30年度に20年を迎える環境共生学部では、自然・環境の変化、学生や社会のニーズ等に適切に対応した教育・研究・地域貢献を行うため、組織のあり方を検討する。 ウ. 総合管理学部では、旧カリキュラムの適切な運用に加え、平成29年度から施行する新カリキュラムを着実に実施し、また教員の教育体制(組織)を点検し再編する。
	(19) 大学院教育では、教育・研究の指導に組織的に取り組むため、複数教員による研究指導を拡充する。	(19) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)

<p>中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)</p>	<p>中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)</p>	<p>平成29年度 年度計画</p>
<p>② 各授業科目の成績評価基準を明確化するとともに、導入した客観的な評価方法を的確に運用し、教育の質を確保する。</p>	<p>(20) 各授業科目について、シラバスを点検し、成績評価基準の精緻化に取り組む。</p>	<p>(20) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)</p>
	<p>(21) 学位の質保証の観点から、卒業及び修了までに修得すべき知識・能力について、評価の客観性を高める。</p>	<p>(21) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)</p>
	<p>(22) 英語教育について、次のことに取り組む。 ① 学部、学科において、修得すべき英語能力を明確にし、各種英語運用能力検定試験の受験により修得した能力を客観的に検証する。 ② 英語英米文学科では、個々の学生に対応した支援体制を作り、総合的な英語運用能力の向上を図る。なお、英語能力試験については、学生に個別達成目標を設定させるとともに、4年間の向上率の学年平均10%以上を学科目標とする。</p>	<p>(22) ① 平成28年度に引き続き、本学語学教育システムで活用している英語学習ソフトウェアにより、学生の英語能力測定を実施し、昨年度測定結果も利用しながら、各学科設定の到達目標に照らして修得した英語能力について検証する。 ② 英語英米文学科では、平成28年度と同様に下記のとおり英語運用能力育成プログラムを実施する。 ア. TOEIC®の模擬試験で英語運用能力を測定する。 イ. 「ア」の結果、学生の多読、ライティング等の実績等に基づいて学生の個人面接を行う。 ウ. データを分析しながらプログラムの検証を継続的に実施し、次期中継計画に向けた適切な目標を検討し定める。</p>
<p>③ 学生の学習意欲や教育効果の向上を図るため、学生の学習環境を適切に整備する。</p>	<p>(23) 単位制度の実質化の観点から、キャップ制度を導入する。</p>	<p>(23) 平成28年度の認証評価の受審結果に基づき、全学部において、キャップ制の導入に向けて検討する。</p>
	<p>(24) 学習意欲の持続に向け学習指導体制の充実を図る。</p>	<p>(24) 各学部・学科において、教学IR室が教育改善のために行うFDや各種調査等の分析データ等も活用し、不断に学生の学習意欲を喚起する取組を行う。</p>

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
2 研究に関する目標	2 研究に関する目標を達成するための取組	
(1) 目指すべき研究の方向に関する目標	<目指すべき研究の方向に関する目標を達成するための取組>	
① 人文科学・自然科学・社会科学の3分野を有する大学の特色を生かし、学際的な研究や基礎研究を推進する。	(25) 人文科学・自然科学・社会科学の3分野の基礎研究を極めるとともに、分野間連携研究を推進する。 (26) 研究活動を活性化するため、科学研究費補助金への応募を義務化する。	(25) 文学研究科においては、ジェンダーをテーマとした横断研究のまとめをする。「地域伝来文献の横断的研究」を始動する。 環境共生学研究科においては、「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」及び「地域の環境共生型社会の構築に関する研究」をプロジェクト・チームにより引き続き推進し、その成果を取りまとめると共に、フォーラム等の機会を通じて公表する。 アドミニストレーション研究科においては、「地域社会の持続的な創造への枠組みに関する研究」として、平成24年度より推進してきた自治体の課題に関する研究を取りまとめる。 (26) 各学部において、科学研究費補助金への応募に向け、平成29年度提出予定の「研究種目」と「研究課題」について事前確認を行い、全員応募を維持していく。
② 社会の要請に積極的に対応するため、地域課題の解決に役立つ研究活動を推進する。	(27) 地域に貢献する「基礎自治体との共創的研究」の拠点形成を目指し、次に掲げる研究を重点的に推進するなど「地域課題に関する研究」を発展させる。 ・ 地域の環境共生型社会の構築に関する研究 ・ 地域社会の持続的な創造への枠組みに関する研究	(27) ア. 「地域の環境共生型社会の構築に関する研究」をプロジェクト・チームにより引き続き推進し、その成果を取りまとめると共に、フォーラム・シンポジウムなどの機会を通じて公表する。 イ. 「地域社会の持続的な創造への枠組みに関する研究」として、平成24年度より推進してきた自治体の課題に関する研究を取りまとめる。
③ 熊本県立大学として独自性のある研究の方向性を明確にしたうえで、推進する。	(28) 「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」を重点的に推進する。	(28) 平成29年度を「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」に関する研究プロジェクトの最終年度と位置づけ、成果のとりまとめ事業として、シンポジウム等を実施する。
(2) 目指すべき研究の水準に関する目標	<目指すべき研究の水準に関する目標を達成するための取組>	
研究成果が国内外で高く評価される水準を確保・維持する。	(29) 国内外で高く評価される研究水準を確保・維持するため、次のことに取り組む。 ① 学協会等での発表、外部研究資金の獲得を推進する。 ② 「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」は日本有数、地域に貢献する「基礎自治体との共創的研究」及び「言語・文学・文化の横断的研究」は九州不可欠なものを目指して推進する。	(29) ① ア. 学会発表支援旅費により教員の学協会等での発表を支援する。 イ. 科学研究費助成事業等外部資金獲得に向け、学部を中心にFDを実施する。 ② <文学研究科> ・「言語・文学・文化の横断的研究」について、これまでの取組を集約すると同時に、新たな研究テーマである「地域伝来文献の横断的研究」に取り組む。 <アドミニストレーション研究科> ・県内市町村と連携しながら行ってきた「基礎自治体との共創的研究」について集約するとともに、CPD講座等を活用して、自治体職員の専門能力向上のための取組を推進する。また、地域と協働した防災減災に関するプログラムを引き続き実施する。

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
(3) 研究の推進に関する目標	<研究の推進に関する目標を達成するための取組>	
① 研究水準の向上のため、教員の研究活動について適切な評価・改善を行う。	(30) 研究活動について、個人評価制度等により点検・評価を行い、改善に努める。また、外部研究資金獲得に伴う間接経費の適切な配分について検討する。	(30) 教員の研究活動の評価指標として取り扱われてきた「研究力向上計画」については、最終年度となる平成28年度分実績を取りまとめ、各教員にもフィードバックする。
② 優れた研究を推進するため、組織的な研究支援を促進し、効果的な研究環境を整備する。	(31) 「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究」、「基礎自治体との共創的研究」、「言語・文学・文化の横断的研究」について、推進組織を整備する。	(31) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して研究を推進する。)
	(32) 研究に必要な学術情報を適時・適確に利用できるよう、学術情報検索機能の拡充などの環境整備を行う。	(32) 学術リポジトリによる情報の公開について、学位論文のみならず、紀要や研究成果報告等の公開を充実させ、研究環境の整備を進める。
3 地域貢献に関する目標	3 地域貢献に関する目標を達成するための取組	
(1) 県、市町村、企業その他の団体との連携を深め、それらの団体を支援するシンクタンク機能を充実・強化する。	(33) これまでの包括協定に基づいた活動の成果を踏まえ、本学の特長を活かした連携や組織的な推進体制の構築に取り組む。	(33) ア. 包括協定団体(県・市町村、研究機等)との連携に基づき、各団体が直面する地域課題解決の支援に向けた研究活動を継続的に推進する。 イ. 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)における連携自治体の地域課題解決を引き続き積極的に支援する。 ウ. 「地(知)の拠点大学による地方創生事業(COC+)」の参加校として、県内の参加大学、産業団体、自治体と連携して、県内の1次産業分野における産業創生、雇用創出の支援に取り組んでいく。
(2) 大学・試験研究機関等との連携を強化して地域産業に関する共同研究等を行い、研究成果の公表や現場への普及活動等を通じて、研究成果を地域社会に役立てる。	(34) 研究成果・研究情報を定期的に発信する機会を設け、大学・試験研究機関等との相互の協力により地域産業の振興に資する研究活動を行い、その成果を還元する。	(34) 大学ホームページを活用して、本学の研究者や研究に関する情報を発信する。 また、包括協定団体である県農業研究センター等と連携した研究や、県が進める「くまもと県南フードバレー構想」に関連する研究など地域産業の振興に資する研究活動を実施する。
(3) 県民の学習ニーズに応える取組を体系化し、県民の生涯学習と専門職業人の継続的な職能開発の支援を充実・強化する。	(35) 本学の特長を活かし、九州全域を対象とした教育上の貢献を果たすため、次のとおり活動を展開する。 ① 知識基盤型社会の進展に対応し、その時々々の社会的課題に関する各種公開講座等を開講する。 ② 生涯学習ニーズに対応した、多様かつ幅の広い学習プログラムを提供する。 ③ 専門領域における競争と革新に対応する「熊本県立大学CPDプログラム」を開発し、提供する。	(35) 授業公開講座、各種公開講座、CPD等、県民の学習ニーズに対応した生涯学習や専門職業人教育のための機会を継続的に提供する。

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
4 国際化に関する目標	4 国際化に関する目標を達成するための取組	
(1) 学生に異文化への理解を促し、グローバルな視点から物事を考える能力を身につけさせるため、学生の国際交流を推進する。	(36) 学生の国際的視野の涵養を目途に協定校等への研修・留学を促進する。また、研修生・留学生の受入れを促進するため、受入施設の整備を図る。	(36) ア. 学生の海外留学を支援する本学独自の奨学金制度を見直し、協定校への派遣等学生の積極的な海外留学を促進する。 イ. 外国人留学生学費免除制度・水銀研究留学生奨学金制度を活用して入学した外国人留学生その他留学生に対し、大学生活における支援を継続して行う。
(2) 研究水準の向上や教育内容の充実のため、諸外国の大学等との連携を深め、研究者交流、国際共同研究等を推進する。	(37) 海外研究者の招聘や協定校をはじめとする海外大学とのシンポジウム開催等により、教育の国際化や研究者交流の推進、国際共同研究への進展を図る。	(37) ア. 協定校をはじめとする海外大学との学術交流を引き続き図る。 イ. 国際情勢をテーマとしたシンポジウムを実施する。
	(38) 若手教員の育成に向け、海外研修・留学の機会を広げる。	(38) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
5 学生生活支援に関する目標	5 学生生活支援に関する目標を達成するための取組	
(1) 学生の人的成長がボランティア活動や課外活動で培われることを重視して、こうした学生の活動を支援する。	(39) 課外活動及びボランティア活動等に関する指針を策定し、学生の諸活動を支援する。	(39) 課外活動については、その活動に伴う成績等について積極的にホームページ等を利用して学外に対し情報を発信する。また、ボランティア活動については、ボランティアステーション等を活用しながら、その活動を引き続き支援する。
(2) 学業成績・人物ともに優秀な学生の進学や修学を支援する経済的支援体制を充実し、その内容を積極的に公表する。	(40) 奨学・育英の両面から効果的な経済的支援のあり方を検討し、改善を図る。	(40) 従来からの授業料減免・熊本県立大学奨学金制度及び平成28年熊本地震により被災した学生に対する授業料減免等による学生の経済的支援を実施する。
(3) 学生が安心して学生生活を送ることができるように、心身の健康保持のサポート体制等を充実・強化する。	(41) 心身に障がいのある学生が修学するうえで必要なサポートを行う。	(41) 心身に障がいのある学生への対応方法等に関するFD・SDを実施する。また、修学支援に関する全学的な指針に基づいた対応を実践する。
	(42) 心身両面における学生サポート充実のため、保健センター・学生相談室及び人的支援体制を充実する。	(42) 心身に障がいのある学生に対する本学学生の理解・支援実施のため、希望者を対象として外部関係機関を利用した研修会の実施を検討する。
	(43) 個人情報の管理に留意しつつ、学生指導のために必要な情報の種類と情報共有の範囲、そのために必要なシステムと管理体制を具体化する。	(43) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
(4) 学生が求める企業・就職情報の収集・提供を促進するなど、就職支援を充実する。	(44) 就職支援を見据え、社会との接続を念頭に学生と社会とをつなぐ諸活動を推進する。	(44) ア. 企業等の採用動向に関する情報収集を実施する。 イ. 大学コンソーシアム・県等のインターンシップ参加希望学生の支援及び本学インターンシップ協力企業の充実を図る。 ウ. 3年次対象の就職セミナーにて、就職活動前の自己分析の機会を設ける。

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
Ⅱ 業務運営の改善・効率化に関する目標	Ⅱ 業務運営の改善・効率化に関する目標を達成するための取組	
1 大学運営の改善に関する目標	1 大学運営の改善に関する目標を達成するための取組	
(1) 理事長と学長のリーダーシップのもと、法人化後整備された組織体制を生かし、社会状況の変化に迅速に対応する。	(45) 法人化後に整備した理事長を議長とする理事会、経営会議、運営調整会議及び学長を議長とする教育研究会議を中心に大学の運営状況を検証し、必要な対策を講じる。	(45) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
(2) 文書等の適正な管理と歴史資料として重要な文書の適切な保存を行い、広く利用に供する。	(46) 文書等の管理及び歴史資料として重要な文書の保存について、関係規程に基づき、適切に行う。	(46) 平成29年が大学創立70周年であることを踏まえ、これまで以上に本学の歴史を振り返られる資料の収集に努め、アーカイブの充実を図る。
2 教育研究組織の見直しに関する目標	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための取組	
社会の要請に積極的に応えるため、学部学科、附属機関等の教育研究組織のあり方について不断に検討し、必要に応じ適切に見直す。	(47) 大学を取り巻く環境の変化等に的確に対応していくため、組織の機能を検証しながら効率的・効果的な組織体制を構築していく。	(47) 大学を取り巻く環境の変化等に的確に対応していくため、学部、学科のあり方の検証を行い、必要に応じ見直しを進める。
3 人事の適正化に関する目標	3 人事の適正化に関する目標を達成するための取組	
(1) 教育研究活動を活性化するため、事務職員の能力開発を推進するとともに、教職員の適正な人事・評価を行う。	(48) 事務職員の資質の向上を図るため、現行のSD計画の研修プログラムを充実させ、学内外における研修を計画的に実施する。	(48) 「事務職員を対象とする研修体系」を踏まえて、事務職員の資質向上を図るため、年度のSD(職員研修)計画に基づき、学内外の研修を体系的に行う。
	(49) 新規に採用する准教授・講師について、一定の任期付きの雇用の後、審査を経て、定年までの雇用とする制度を導入する。	(49) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
(2) 専任教員の年齢のバランスに配慮しながら、博士号取得者の教員採用等優れた人材の確保によって教育研究の活性化を図る。	(50) 事務組織の専門性を高め、安定的な業務の継続・継承を図るため、法人独自の事務職員を計画的に採用する。	(50) (中期計画を達成したため、年度計画を策定しない。)
	(51) 各学部における中期的な人事計画による定数管理の下、専門分野、職位、資格、年齢構成等を全学的に検討する「枠取り」方式に基づき、博士号取得者の中から教員を採用することを原則とする。	(51) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
4 事務等の効率化・合理化に関する目標	4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための取組	
事務の簡素化・合理化を進めるとともに、効率的な事務処理を図る。	(52) 業務の効率化を図るため、業務の可視化による点検を行い、外部委託の活用並びに情報システムの新規導入・機能強化及び管理の一元化等を外部の人材を活用しながら検討し、業務改善を進める。	(52) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標		
1 自己収入の増加に関する目標	1 自己収入の増加に関する目標を達成するための取組	
安定的な財政基盤を確立するため、授業料や外部教育研究資金等の自己収入の確保に努める。	(53) 授業料、入学金等の学生納付金については、教育内容や環境の整備状況、他大学の動向、社会状況の変化等を総合的に勘案しながら設定する。	(53) 授業料、入学金等学生納付金に関する国立大学、公立大学等の動向を注視し、本学の授業料等の検討を行う。
	(54) 授業料の納期を現行の3期制から授業形態のセメスター制に合わせて2期制へ移行し、授業料の円滑な確保に努める。	(54) (中期計画を達成したため、年度計画を策定しない。)
	(55) 外部資金の確保については、教育、研究などに区分したうえで積極的に取り組む。	(55) ア. 科学研究費補助金の採択率の向上を図るためFDを各学部等で行う。 イ. 教員に対して、外部資金の獲得に関する情報提供を随時行うほか、科研費応募説明会の開催など外部資金獲得に係る業務支援を行う。
	(56) 本学独自の教育研究活動を充実させるため、熊本県立大学未来基金について、恒常的寄附金事業として継続して募集を行い、効果的に活用する。	(56) 熊本県立大学未来基金について、ホームページ、広報誌等での広報を行い、募集する。また、奨学金等、教育研究活動の充実に資する活用を図る。
2 経費の抑制に関する目標	2 経費の抑制に関する目標を達成するための取組	
既に実施している経費節減等の取組を検証しつつ、大学の業務全般について更に効率的な運営に努め、経費の抑制を図る。	(57) 「公立大学法人熊本県立大学環境配慮方針」に沿って、毎年度エコ・アクションプランを策定し、環境への負荷を低減する取組を検証しながら改善、実施することにより経費の抑制に努める。	(57) エコ・アクションプランに基づき、電力使用量抑制のため、大学全体での節電に努めるとともに、屋内外の照明のLEDへの移行等を進める。また、老朽化した空調設備の適切な維持補修などにより、環境に配慮した整備とともに経費の抑制に取り組む。

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
IV 自己点検・評価及び情報提供に関する目標	IV 自己点検・評価及び情報提供に関する目標を達成するための取組	
1 評価の充実に関する目標	1 評価の充実に関する目標を達成するための取組	
自己点検・評価を定期的実施するとともに、第三者機関の評価を受け、これらの評価結果を教育研究や組織運営の改善に活用するという組織的なマネジメントサイクルを充実させる。	(58) 大学の改革を進めるため、自己点検・評価委員会を中心に、毎年度エビデンスに基づく自己点検・評価を実施し公表する。また、平成28年度までに認証評価機関による評価を受け、その結果を必要に応じて次期(第3期)中期計画に反映させる。	(58) 平成28年度計画及び第2期中期計画に係る業務実績について、エビデンスに基づく自己点検・評価を行い、その結果をホームページで公表する。 また、平成28年度に受審した認証評価の結果を公表するとともに、必要に応じて第3期中期計画に反映させる。
2 情報公開、情報発信等の推進に関する目標	2 情報公開、情報発信等の推進に関する目標を達成するための取組	
教育研究活動等について国内外に十分認識されるよう、広報機能を更に強化し、大学に関する情報を積極的かつ効果的に発信する。	(59) 研究活動の広報、各種調書作成での活用を前提とした教員の教育研究活動に関するデータベースを再整備し、効果的に発信する。	(59) (中期計画を達成したため、年度計画は策定せず、継続して取り組む。)
	(60) ホームページで公表する研究者情報や大学院に関する情報について、外国語版を充実する。	(60) ア. 大学院関連情報に係る外国語版ホームページについて、掲載内容の修正の要否について点検し、修正を行うなど適正な管理を行う。 イ. 研究者に関する情報の英語版ホームページについては、掲載事項の点検、見直しを適宜進めていく。

中期目標 (H23.12.21設立団体の長指示)	中期計画〔第2期〕 (H24.3.28設立団体の長認可)	平成29年度 年度計画
V その他業務運営に関する重要目標	V その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組	
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための取組	
<p>既存の施設や設備の適正な維持管理、計画的な整備改修を進めるとともに、施設設備の有効活用を推進する。 なお、整備改修に当たっては、ユニバーサルデザイン、環境保全等に十分配慮する。</p>	<p>(61) 新たな建物等保全計画や中期的な機器更新計画等に基づき、ユニバーサルデザイン、省エネルギー等環境に配慮しながら施設設備の計画的な整備と維持管理を行う。建物については、長期的な視点による改築等も考慮し、最適な時期、規模による投資を行う。</p>	<p>(61) 熊本地震被害に伴う災害復旧工事の早期発注・完了に取り組む。その上で、限られた予算の中で、緊急性や必要性を考慮し、効率的かつ計画的な建物・設備・機器等の整備に取り組む。 また、施設設備の維持改修に必要な財源の確保に資するため新たな施設設備保全計画を策定する。</p>
2 安全管理に関する目標	2 安全管理に関する目標を達成するための取組	
<p>(1) 防災対策、個人情報保護を含む情報セキュリティの強化等リスクマネジメントを充実させ、学生と教職員の安全確保に努める。</p>	<p>(62) 大地震の発生等不測の事態に備え、次のことに取り組む。 ①防災資材の備蓄や防災訓練の実施等により危機管理体制を点検・強化する。 ②アリーナ等を有するキャンパス及び小峯グラウンドを地域の避難場所等として提供できるよう検討を行い、対応可能な対策を進める。</p> <p>(63) 個人情報の保護については、関係規程に基づき適切に対応していくとともに、学内啓発を徹底し、情報資産の保全に努める。</p>	<p>(62) ア. 必要な防災資材の備蓄や避難場所としての機能も考慮した施設整備を進める。 イ. 教職員及び学生が参加する防災訓練等を実施し、全学的な防災体制の構築を進める。</p> <p>(63) 情報セキュリティポリシー等をもとに、教職員の研修等を行い、適切な取扱いの徹底を図る。</p>
<p>(2) 教職員の心身の健康保持に努める。</p>	<p>(64) 教職員の健康保持を図るため、健康相談体制の充実や健康管理に関する意識啓発を推進する。</p>	<p>(64) ストレスチェックの結果等を踏まえ、健康管理に関する研修会等を実施する。</p>
3 人権に関する目標	3 人権に関する目標を達成するための取組	
<p>人権尊重に関する啓発を推進し、人権が不当に侵害され、良好な教育・研究・職場環境が損なわれることのないよう、全学的な取組を進める。</p>	<p>(65) ハラスメント等の人権侵害の防止と適切な対応を確保するため、相談員への研修会の実施や外部相談員の設置等により、相談体制を充実させる。また、相談体制の周知を強化する。</p>	<p>(65) ア. 外部相談員制度を運用するとともに、ハラスメント相談体制の周知を図る。 イ. 平成28年度に改正したハラスメント防止規則及び防止指針の内容を含めた人権研修会を開催する。</p>

中期計画[[第2期] (H24.3.28設立団体の長認可)		平成29年度 年度計画	
VI 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画 1 予算 平成24年度～平成29年度 予算 (単位:百万円)		VI 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画 1 平成29年度予算(平成30年1月変更) (単位:百万円)	
区 分	金 額	区 分	金 額
収入		収入	
授業料収入	6,732	授業料収入	1,078
入学金収入	804	入学金収入	138
検定料収入	235	検定料収入	37
受託研究等収入	240	受託研究等収入	36
寄附金収入	153	寄附金収入	14
補助金等	0	補助金等	75
運営費交付金	5,542	運営費交付金	965
雑収入	162	雑収入	38
目的積立金取崩	212	目的積立金取崩	80
計	14,080	計	2,461
支出		支出	
教育研究経費	10,586	教育研究経費	1,806
一般管理費	3,254	一般管理費	619
受託研究費等	240	受託研究費等	36
計	14,080	計	2,461
[人件費の見積り] 中期目標期間中総額8,385百万円を支出する。(退職手当は除く。)		[人件費の見積り] 期間中総額1,401百万円を支出する。(退職手当は除く。)	
注1) 人件費の見積り額は、役員報酬並びに教職員給料、諸手当及び法定福利費に相当する費用を試算している。			
注2) 退職手当については、公立大学法人熊本県立大学が定める規程に基づいて支給することとし、各年度の定年退職者について試算している。			
注3) 運営費交付金の算定方法 運営費交付金 ＝標準的支出－標準的収入＋退職金＋大規模修繕費＋夢教育等特別交付金			
注4) 運営費交付金は、上記の算定方法に基づき一定の仮定の下に試算したものであり、各事業年度の運営費交付金については予算編成過程において決定される。			
注5) 受託研究等収入については、各事業年度の採択状況に応じ大きく変動するため過去の実績等を踏まえ試算している。			
2 収支計画 平成24年度～平成29年度 収支計画 (単位:百万円)		2 平成29年度収支計画(平成30年1月変更) (単位:百万円)	
区 分	金 額	区 分	金 額
費用の部	13,850	費用の部	2,412
経常費用	13,850	経常費用	2,356
業務費	12,331	業務費	2,001
教育研究経費	3,349	教育研究経費	548
受託研究費等	240	受託研究費等	36

役員人件費	379
教員人件費	6,160
職員人件費	2,203
一般管理費	672
財務費用	36
雑損	0
減価償却費	811
臨時損失	0
収入の部	13,850
経常収益	13,850
授業料収益	6,588
入学金収益	804
検定料収益	235
受託研究等収益	240
寄附金収益	153
補助金等収益	0
運営費交付金収益	5,339
雑益	162
資産見返負債戻入	329
資産見返運営費交付金戻入	260
資産見返寄附金戻入	4
資産見返物品受贈額戻入	12
資産見返補助金等戻入	53
臨時利益	0
純利益	0
総利益	0

注1)受託研究費等は、受託事業費、共同研究費及び共同事業費を含む。
注2)受託研究等収益は、受託事業収益、共同研究収益及び共同事業収益を含む。

3 資金計画

平成24年度～平成29年度 資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	14,398
業務活動による支出	13,106
投資活動による支出	560
財務活動による支出	517
次期中期目標期間への繰越金	215
資金収入	14,398
業務活動による収入	13,868
授業料収入	6,732
入学金収入	804
検定料収入	235
受託研究等収入	240
寄附金収入	153

役員人件費	71
教員人件費	932
職員人件費	414
一般管理費	119
財務費用	13
雑損	0
減価償却費	223
臨時損失	56
収入の部	2,412
経常収益	2,356
授業料収益	1,078
入学金収益	138
検定料収益	37
受託研究等収益	36
寄附金収益	14
補助金等収益	36
運営費交付金収益	920
雑益	38
資産見返負債戻入	59
資産見返運営費交付金戻入	39
資産見返寄附金戻入	4
資産見返物品受贈額戻入	1
資産見返補助金等戻入	15
臨時利益	56
純利益	0
目的積立金取崩額	0
総利益	0

3 平成29年度資金計画(平成30年1月変更)

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,888
業務活動による支出	2,178
投資活動による支出	58
財務活動による支出	175
翌年度への繰越金	477
資金収入	2,888
業務活動による収入	2,381
授業料収入	1,078
入学金収入	138
検定料収入	37
受託研究等収入	36
寄附金収入	14

補助金等収入	0
運営費交付金収入	5,542
雑収入	162
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前期中期目標期間よりの繰越金	530

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

3億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れることが想定される。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てる。

X その他

1 施設・設備に関する計画

施設・設備の内容	予定額(百万円)	財源
施設大規模改修、研究機器等更新	560	運営費交付金、自己収入

注1)金額については見込みであり、中期目標を達成するために必要な業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽度合等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもある。

なお、各事業年度の運営費交付金については、事業の進展等により所要額の変動が予想されるため、具体的な額については、各事業年度の予算編成過程等において決定される。

2 人事に関する計画

II「業務運営の改善に関する目標を達成するための取組」の3「人事の適正化に関する目標を達成するための取組」に記載のとおり

3 積立金の使途

前期中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てる。

4 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし。

補助金等収入	75
運営費交付金収入	965
雑収入	38
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前年度からの繰越金	507

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

3億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れることが想定される。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てる。

X その他

1 施設・設備に関する計画

施設・設備の内容	予定額(百万円)	財源
施設及び教育研究機器等の整備	108	運営費交付金、積立金